

Green Ishikawa
No.161

グリーン いしがわ

3

2024.March

3月16日(土)の
北陸新幹線の
県内全線開業にあわせて、
金沢駅・小松駅・加賀温泉駅にて
エアリーフローラの
フォトスポット設置予定!



Green Ishikawa Contents

News & Topics

- ・令和6年度事業計画のあらまし
- ・石川県本部 令和6年度事業計画
- ・令和5年度 冬期園芸大学
- ・全農 折原会長がJA石川県中央会を訪問
- ・能登原木しいたけ「のどてまり・のと115」
～能登の自然が育んだ最高級椎茸～

お知らせ ほか

- ・もちつき&ふるまい鍋実施! inAコープとぎ店
- ・私のおすすめ! エコープマーク品
- ・米心石川 美味しさ満開 春のひやくまん穀おにぎり
- ・米心石川 いしかわスタイル

- ・新包装肉パックセンター増改装工事地鎮祭
- ・令和5年度 JAグループ石川 TACパワーアップ大会
- ・JAホーム

f 全農いしかわ公式
Facebookページ

全農いしかわの公式Facebookページ
「石川うまれがだいすきさ」

県産農畜産物やJA加工品、イベント
情報などを掲載中! ぜひご覧ください!

URL: www.facebook.com/ishikawaumare.daisukisa



JA全農 令和6年度事業計画

基本的な考え方

今次中期（令和4～6年度）事業計画の仕上げの年である「令和6年度事業計画」においては、自己改革やこれまでの取り組みを振り返り、全体戦略の達成に向けた具体策に取り組みます。また、直近の事業環境の変化をふまえた具体策を実践するとともに、今後想定される経営リスクに対応した事業運営をおこないます。

全体戦略

- ①生産振興
- ②食農バリューチェーンの構築
- ③海外事業展開
- ④地域共生・地域活性化
- ⑤環境問題など社会的課題への対応
- ⑥JAグループ・全農グループの最適な事業体制の構築

2030年の全農グループのめざす姿

持続可能な農業と食の提供のために
“なくてはならない全農”で
あり続ける

- ①JAと本会が情報を共有し、一体となって生産者にベストな支援をおこなう
- ②マーケットインを起点に、JAグループとしての食農バリューチェーンを構築する
- ③地域のくらしと食に貢献するとともに、環境に配慮した事業をおこなう

<事業戦略>事業環境に対応した具体策

①生産振興

1. 生産コスト低減に資する肥料の取り扱い拡大、生産性向上に資するデジタル技術の普及、輸入依存度の高い穀物の生産支援などをすすめます。
2. 本会実証農場のノウハウ等を活かした農畜産物の生産支援、農業経営の安定化に資する畜舎賃貸事業の拡大、多収品種などの種子確保をはかります。
3. 農畜産物の生産性・品質向上に資する技術・品種の実証・普及などにより、持続的に農家経営ができる環境を整えるとともに、国産農産物取扱量の維持・拡大に向けた広域集出荷施設の整備と効率的な配送体制の構築に取り組みます。

②食農バリューチェーンの構築

1. 鉄道・船舶の活用や中継物流によるドライバーの輸送時間短縮、消費地物流拠点の設置による供給体制強化、パレチゼーションの普及など、消費地への物流体制・インフラを整備します。
2. 本会通販サイトを活用し国産農畜産物の消費拡大をさらにすすめるとともに、新設したパックごはん製造施設の本格稼働など、消費者ニーズに合致した商品を開発し、販売拡大をすすめます。
3. グループ会社等と連携した総合営業体制をさらに強化し、国産農畜産物の価値を訴求した商品の販売を拡大するとともに、生乳等における需給調整機能の発揮により、生産者所得の安定・向上をめざします。

③海外事業展開

1. 国際情勢の変化に対応した海外原料サプライチェーン強化、中長期の視点に立った最適な海外事業体制の構築、肥料原料の備蓄体制の確立により、必要な資材原料を安定的に調達します。
2. 海外実需者ニーズや輸入国の規制などに対応した輸出産地づくりを支援し、海外市場も視野に入れた日本産農畜産物の販売拡大をはかります。
3. 輸出拡大に資する国内の集出荷・加工施設の整備に加え、国が主導する国内育成者権の保護・活用に向けた協議会と連携したビジネスの検討など新たな事業機会創出に挑戦します。

④地域共生・地域活性化

1. 農畜産物直売所を併設した店舗を通じた地産地消の推進、地域生産振興に繋がるエコープマーク品等の商品開発、IT技術を活用した地域ネットワークづくりにより、地域活性化の基盤を整備します。
2. 自家消費型太陽光発電（PPA）等による再生可能エネルギーの普及・拡大、JA生活店舗の業態転換の支援強化により、持続可能な地域社会の実現に向けた取り組みをすすめます。
3. 「JAでんき」の取り扱い拡大や蓄電池を活用した余剰電力を組合員間で相互融通する仕組みの導入などを通じて、組合員サービスを充実します。

のあらし



食と農を
未来へつなぐ

情勢認識

1. 「食料・農業・農村基本法」の見直し

激しさを増す原料・食料の調達競争、頻繁に発生する異常気象による農畜産物生産などへの影響に対応するため、国は「食料・農業・農村基本法」の見直しをすすめています。

2. 依然として不安定な農業生産

慢性的な労働力不足、依然として高水準の生産コストによる農家経営の圧迫が懸念されているため、労働力支援や生産コスト低減に向けた取り組みがより一層求められています。

3. 農畜産物における物流問題

2024年4月の改正労働基準法の適用により、農畜産物の運べないリスクや配送コストの上昇が懸念されているため、物流の適正化・効率化に向けた取り組みを迅速にすすめる必要があります。

4. 生産コストを考慮した価格形成

国産農畜産物の生産コストを十分考慮した価格形成ができていないため、農畜産物の価値向上や販路拡大に向けた取り組みが強く求められています。

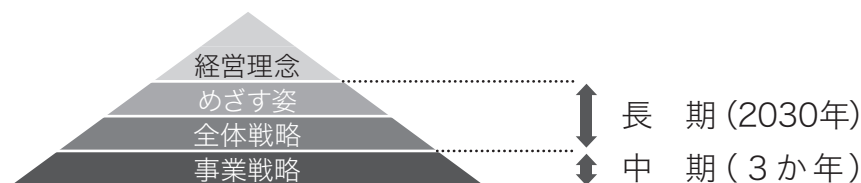
5. J Aを取り巻く環境

営農・経済事業を担うJ A職員の減少により、担い手への支援機能が低下する恐れがあるため、J A事業の効率化や、J A・本会との最適な事業体制の構築に向けた取り組みをすすめる必要があります。

6. E S G経営に対する社会的要請

上場企業は、国によるサステナビリティ情報開示の義務化を受け、環境問題や人権を考慮した経営に取り組む必要があり、本会を含めた取引先にもE S G対応を求めています。

中長期の事業計画の体系図



⑤環境問題など社会的課題への対応

1. 生産現場の実態にもとづいた“グリーンメニュー”の実践、国内未利用資源からの回収りん等の活用、地域循環型農業に向けた取り組み強化により、環境にやさしい農業の実現をめざします。
2. 環境に配慮した農畜産物生産技術の開発・普及、全農グループ全体の温室効果ガス排出量の計測などにより、脱炭素化に向けた取り組みをすすめます。
3. A コープ店舗等におけるフードロス削減、農業・食・環境への消費者の理解向上につながる取り組みの実践により、環境に配慮した持続可能な社会に貢献します。

⑥J Aグループ・全農グループの最適な事業体制の構築

1. J Aと連携した集荷・販売の取り組み強化、広域拠点整備などの共同事業の拡大、D X戦略の実践を通じた事業効率化などにより、J Aへの支援強化をはかります。
2. グループ会社の再編整備や資金調達コスト低減、情報共有・活用の強化、次期中期計画に向けた財務指標の検討などにより、全農グループ経営を充実させます。
3. 多様な働き方に対応した人事戦略の策定・実践、グループ会社等との人事交流を通じた人材育成により、必要な人材を確保します。人権方針の策定による多様性の尊重と受容をはかり、内部統制や自主点検の見直しによるコンプライアンス態勢の強化によりガバナンスを強化します。

災害などの危機管理への対応

1. 激甚化する自然災害からの復旧支援と災害への準備・対応
2. 重要家畜疾病対策の強化

石川県本部 令和6年度事業計画

I. 石川県本部における重点施策

令和6年度は、3か年計画の最終年度として下記の重点施策5項目を確実に実践します。

また、昨今の急速に変化する世界情勢等、それに伴う事業環境の変化等に対し、J A・農家組合員の負託に応えるべく、「なくてはならない全農」の実現に向け、大胆かつ積極的・主体的に、持続可能な農業とJ Aグループの事業拡大に取り組みます。

【重点施策5項目】

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| ① 生産振興と生産基盤の強化 | ④ J Aへの支援拡充と最適な事業体制の構築 |
| ② 需要開拓と販売力の強化 | ⑤ 新たな事業領域の拡大 |
| ③ 大規模経営体への総合的対応と事業競争力の強化 | |

また、令和6年能登半島地震の被災地における農業の復旧・復興に向け、全農グループをあげて全力で取り組んでまいります。



【生産振興と生産基盤の強化】

（米穀）

- ア. 需要に応じた主食用米の計画生産と水田活用
米穀の需要確保
- イ. 麦・大豆の生産拡大と単収向上
- ウ. 需要に応じた計画的種子生産と県内種子場産地の供給力維持

（園芸）

- エ. J Aグループ石川営農戦略室と連携した園芸
主要品目の生産振興と県ブランド品目の生産拡大
- オ. 園芸種苗センターにおける優良種苗の安定生産

（畜産）

- カ. 本会実験農場の運営による能登牛の生産性向上の支援強化・担い手育成
- キ. 関係機関と連携した経営改善支援・担い手育成による畜産農家の経営基盤強化
- ク. 能登牛・能登豚の生産拡大に向けた取組検討
(リース式牛舎・能登豚直営農場等)

（営農）

- ケ. 高温等異常気象に対応するための土づくり
(早期の秋起こし、B B土づくり資材の施用)
の推進強化
- コ. 水稻+麦+大豆2年3作体系等水田高度利用の取組に向けた未実施地域におけるモデル実証の取組推進
- サ. 「うまい・きれいな石川米づくり+1運動」の展開による県産米の収量向上、品質の高位安定化推進
- シ. 「みどりの食料システム戦略」に沿った環境配慮型農業の取組の普及

（肥料農業）

- ス. 被覆肥料における環境対策、環境保全に対応した農業への切替、新規技術の開発等による、持続可能な農業への取組

【需要開拓と販売力の強化】

（米穀）

- ア. 県産米の販売推進体制強化・販路拡大
- イ. ひゃくまん穀のブランド力の強化と生産拡大
に応じた販路開拓・効果的なP R
- ウ. 百万石乃白の栽培技術の向上と生産拡大

（園芸）

- エ. 重点量販店等への企画販売の推進による主要品目の契約取引や直接販売の拡大

- オ. 生産拡大と連動した生産振興品目、県ブランド品目の販売強化

（畜産）

- カ. 能登牛の東京食肉市場実需者開拓のための首都圏での販促活動
- キ. 県内外能登牛認定店の拡大
- ク. 新包装肉パックセンターの稼働および新商品の開発による販売強化

【大規模経営体への総合的対応と事業競争力の強化】

（米穀）

ア. J Aと実需者を結び付けた事前契約の拡大による県産米の早期販売

イ. 大規模経営体等への訪問推進強化による実需者指定品種等の生産拡大

ウ. 米心石川との協調集荷・販売による共販率の向上

（園芸）

エ. パレット輸送の実施、鉄コンテナ輸送の拡大、発泡スチロール資材の段ボール化、段ボール資材のショートフラップ化による流通コストの低減とSDGsへの取組

（営農）

オ. 農業経営コンサルによる大規模経営体への経営改善支援

カ. I C Tやデータを活用した新技術の実証・栽培指導・導入支援

（肥料農薬）

キ. B B肥料の取扱拡大

ク. 肥料満車直送の拡大・農薬担い手直送規格充実・省力材普及によるコスト低減

ケ. 農薬の結集銘柄の取組強化による取扱シェアの維持・拡大

（農機）

コ. 共同購入低価格農機導入促進によるコスト低減

サ. T A C等部門間連携による大規模経営体への推進力強化

（施設）

シ. 広域事業体制の整備・検討

（燃料）

ス. マスタープランの実践とJ A-S Sの運営強化による取扱シェアの維持拡大

セ. L Pガス小売機能強化によるシェアの維持拡大

ソ. 全国域燃料会社との広域事業体制の整備による事業競争力の強化

（自動車）

タ. 重点販社銘柄・中古車の取扱シェア拡大

チ. J Aと一体となった営農車等拡販施策の強化

ツ. マイカーリース・Web商談・S N Sによる宣伝などの販売体系の拡大

【J Aへの支援拡充と最適な事業体制の構築】

（米穀）

ア. 県本部連合倉庫の増設検討

イ. 全農専用貨物列車・統一フレコン・パレット輸送の拡大等による物流合理化

（園芸）

ウ. J A域を超えた集出荷販売体制の構築に向けた施設整備の基本方針の協議

（営農）

エ. J Aと一体となった効率的な推進体制の構築（一斉訪問等、同行推進強化）

（肥料農薬）

オ. 資材発注システム普及拡大

カ. 広域農家戸配送の拡大

（J Aグリーン）

キ. 業務改善・業態転換を含めた運営見直しの提案

（農機）

ク. 能登北部J A農機センターの運営強化

ケ. 農機事業一体運営の他地区への展開

（建設）

コ. 効率的な施設利用に向けた施設建設及び再編提案等コンサル機能の発揮

（燃料）

サ. 小売事業の本会子会社での運営・受入体制の整備

シ. J A域を超えた広域灯油配送体制による配送業務の効率化とコスト削減

（自動車）

ス. 自動車販売・整備の拠点・機能集約による事業体制の最適化

セ. 販売・整備一体となった人材育成

（管理）

ソ. ジャコム石川と連携した産直品主体のファーマーズマーケットの店舗展開および運営力強化による地産地消の取組強化

【新たな事業領域の拡大】

（米穀）

ア. 台湾輸出の拡大、新規輸出国の拡大

（園芸）

イ. 輸出への取組強化（台湾新規取組等）

（畜産）

ウ. 耕畜連携した堆肥の有効活用、循環型農業への取組

（燃料）

エ. J Aでんきの普及拡大

オ. 移動式S S等の次世代S Sの取組についての取組検討

Ⅱ．石川県本部における事業別実施具体策

米 穀 事 業

【販売力の強化】

- ①ひゃくまん穀の生産・販路拡大
- ②百万石乃白の生産・販路拡大
- ③米輸出の拡大

【需要に応じた計画生産と共販集荷体制の強化】

- ④主食用米の計画生産
- ⑤水田活用米穀の需要確保と一体的取組
- ⑥酒造好適米の生産拡大
- ⑦麦・大豆生産拡大
- ⑧種子の県内種子供給力維持
- ⑨米心石川との協調集荷・販売

【輸送等の合理化と産地インフラの整備】

- ⑩全農専用列車によるコンテナ輸送
- ⑪パレット輸送の取組拡大
- ⑫全農統一フレコンの取組拡大

【大規模経営体への対応強化】

- ⑬実需者指定品種による契約栽培の拡大
- ⑭J A集荷率の向上

【農産物検査業務の合理化】

- ⑮米穀荷受検査システムの推進
- ⑯機械鑑定による検査の実施

園 芸 事 業

【生産振興と販売力強化】

- ①生産振興品目
- ②ブランド品目
- ③主要品目の販売強化
- ④輸出の拡大

【集出荷体制の整備と出荷資材コストの低減】

- ⑤パレット輸送システム
- ⑥発砲スチロール資材の段ボール化（ブロッコリー）
- ⑦段ボールのショートフラップ化

【需要に応じた種苗生産】

- ⑧いちご・かんしょ苗の自家生産・供給拡大
- ⑨主要品目のポット苗生産拡大

畜 産 事 業

【生産基盤の維持・拡大】

- ①能登牛の生産拡大
- ②能登牛東京食肉市場出荷
- ③能登牛直営農場の増設協議
- ④能登豚の生産拡大
- ⑤能登豚直営農場設置協議
- ⑥担い手育成

- ⑦経営改善支援
- ⑧耕畜連携による堆肥の有効活用

【食肉事業の販売力強化】

- ⑨外食向け等、用途に応じた部分肉商品の開発強化による能登牛の取扱拡大
- ⑩新包装肉パックセンターの稼働
- ⑪新包装形態（ガス置換包装）の商品開発

営 農 対 策

【生産振興と生産基盤の強化】

- ①水田高度利用（2年3作等）の取組拡大
- ②「うまきれ＋1運動」を軸とした県産米の品質・収量向上にむけた取組
- ③「みどりの食料システム戦略」実施に向けた計画作成と実証

【大規模経営体への総合的対応】

- ④担い手経営改善支援
- ⑤スマート農業技術の活用
- ⑥J A事業への支援拡充

【J Aと一体になった肥料農業推進・営農支援体制の構築】

- ⑦大規模経営体に対する総合的な推進活動の実施

肥料・農業事業

【B B肥料等のシェア拡大とコスト低減】

- ①B B肥料の拡大
- ②コスト低減

【環境対策への取組】

- ③被覆肥料の代替肥料
- ④環境対策農業への切替

【J A事業への支援充実・最適な事業体制の構築】

- ⑤資材発注システムの導入
- ⑥広域農家戸配送の拡大
- ⑦J A産直資材店舗の運営・業務改善支援
- ⑧A コープ店舗との連携や県内外の産直品による品揃えの充実
- ⑨J Aグリーン認知度向上対策

農機事業

【ＪＡの農機事業への支援強化】

- ①能登北部一体運営の強化
- ②他地区での一体運営の展開
- ③講習会の開催

【低価格農機の導入促進】

- ④共同購入機（コンバイン）の推進強化
- ⑤中古農機の取扱強化
- ⑥中古市の開催
- ⑦担い手応援商材の提案

【部門間連携による大規模経営体への推進】

- ⑧大規模経営体への訪問
- ⑨県本部ＴＡＣとのペア推進
- ⑩園芸関連機械の取扱強化

【デジタル技術の情報収取と共有】

- ⑪メーカー営農支援システム・圃場管理システム等の情報収取

建設事業

【ＪＡ事業への支援拡充】

- ①広域集出荷拠点の新設・再編に向けたコンサルの機能発揮
- ②既存共同利用施設の広域利用に向けた中長期ビジョンの作成

- ③共乾施設の機能保持に向けた取組
- ④ＪＡ施設の中長期的補修計画の提案推進
- ⑤施設建設における高機能化提案

燃料事業

【マスタープランの実践とＪＡ－ＳＳ運営力強化】

- ①チェーン会を軸としたキャンペーン等
- ②販売力強化に向けたリニューアル促進

【ＬＰガス販売販売力強化と保安の高度化】

- ③燃料転換等ＬＰガス販売力の強化
- ④本会巡回による保安指導

【ＪＡ燃料事業の基盤強化】

- ⑤ＪＡ小売事業の委託・譲受等に向けた県域子会社の体制整備
- ⑥物流体制の合理化

【新たな事業の創出】

- ⑦次世代ＳＳの研究
- ⑧ＪＡでんきの普及拡大

自動車事業

【販売・整備拠点等の体制整備】

- ①安定運営に向けた支援

【効果的な販売施策によるシェア拡大】

- ②買取未使用車の品ぞろえ充実
- ③重点販社銘柄の取扱シェア拡大

【新たな販売形態の普及拡大】

- ④ネット・ＳＮＳを活用した宣伝対策強化
- ⑤webを活用した商談・推進の体制強化

管理部門

【県本部全体戦略実現に向けたサポート機能の強化】

- ①部門別ＪＡ支援策推進フォロー
- ②ＩＴの効果的活用

【ファーマーズマーケットの店舗展開と運営力強化】

- ③ファーマーズマーケットの店舗展開支援
- ④ファーマーズマーケットを拠点とした「地産地消」推進強化

【県産農畜産物の消費拡大のための総合プロデュース】

- ⑤マスメディアによる情報発信
- ⑥ＳＮＳを利用したキャンペーン
- ⑦県内外イベントでの販促
- ⑧ＪＡタウンの販売強化
- ⑨直営店の運営強化による県産農畜産物のＰＲ・消費拡大

【コンプライアンス・リスク管理の徹底】

- ⑩継続的な研修の実施
- ⑪拠点巡回による食品表示・労働災害等重要リスクへの管理強化

【事業運営体制の強化】

- ⑫事業体制・職場管理体制の強化
- ⑬戦略的な人材育成プログラムの実践
- ⑭適正な労務管理の徹底

園芸課

令和5年度 冬期園芸大学

2月5日(月)、野菜園芸の振興を図るため、令和6年度冬期園芸大学（石川県野菜園芸協会、本会主催）を開催し、県内各地から生産者やJA職員など約60名が参加しました。

開催にあたり石川県野菜園芸協会 西沢会長より能登半島地震でJAグループ石川としても復興復旧に向け取り組んでいく旨をお話された後「今回の研修で学んだことを今年の生産・販売の戦略に活かしていただきたい」とご挨拶いただきました。

研修会は毎年農閑期に開催しており、今回は株式会社ウフフ代表取締役社長 志賀嘉子氏より「規格外野菜の有効活用について」、JA全農青果センター株式会社代表取締役社長 小野俊明氏より「青果物流通の現状と今後の展開について」と題し、講演いただきました。参加者から「規格外の野菜の流通はどのように行われているのか」「生産コストが高くなる中、なかなか販売価格へ反映できていない。」など活発に質問や意見が上がりました。

参加者の皆様には、今回の講演を本県野菜園芸の振興に活かされることを期待しています。



株式会社ウフフ代表取締役社長 志賀嘉子氏



JA全農青果センター株式会社代表取締役社長 小野俊明氏

全農 折原会長がJA石川県中央会を訪問

2月7日(水)に全農の折原敬一経営管理委員会会長がJA石川県中央会を訪問しました。西沢耕一会長との面会し、能登半島地震の被災地での支援活動や復旧状況について、詳細に説明を受けました。

震災直後は組合員や職員の安否確認にも時間がかかったこと、ライフライン確保のため被災した職員もJA-S Sに出勤して業務を行ったことなどの説明があり、今後も現場からの要望を最優先に対応を行っていくことが伝えられました。

折原会長より復旧・復興に向け全農グループ一丸となって全力で支援していく旨が伝えられました。

全農は引き続き、被災者の皆さまに寄り添い、復旧・復興に向けた支援を行っていきます。



園芸課

能登原木しいたけ「のとてまり・のと115」 ～能登の自然が育んだ最高級椎茸～

穴水高校「のとてまり」初せり

金沢市中央卸売市場

県立穴水高校の生徒が栽培した能登原木しいたけ「のとてまり」が、令和6年2月17日(土)、金沢市中央卸売市場でせりにかけられ、1箱8玉入が11万の高値が付けられ、市場に来ていた生徒たちを喜ばせました。

穴水高校では、「のとてまり委員」の生徒が主体となって原木しいたけの栽培に取り組んでおり、今年で12年目となります。競りの前に生徒代表2名が挨拶を行い「1月1日の能登半島地震によって、奥能登は甚大な被害を受けました。そのような状況の中でも地域の方々や多くの農家や漁業関係者、畜産農家の方々が被災しながらも能登の農業、漁業、畜産業を途絶えさせてはいけなと再建の道を選び前向きに仕事に励む姿を新聞やテレビで知りました。自分たちが地域再建のためにできることは世話をした椎茸で能登ブランドが息絶えてない事をPRすることだと思いました。震災にみまわれ、十分な水も確保できない中で、一生懸命育てた椎茸を地域の代表として紹介いたします。がんばろう能登！」と力強い言葉をいただきました。



頑張ろう能登半島! 奥能登原木しいたけ
「のとてまり・のと115」フェア開催

近江町いちば館
広場

3月9日(土)、近江町いちば館広場にて、奥能登原木しいたけ活性化協議会主催の奥能登原木しいたけ「のとてまり・のと115」フェアが開催されました。奥能登で育った椎茸、乾し椎茸などの販売が行われ、うまみがたっぷりかつまった椎茸が入ったきのこ汁も振舞われ、多くの人で賑わいました。

のと115・のとてまり
Facebookアカウントも
よろしくおねがいします!



能登原木椎茸
のとてまり
Noto 115



能登原木椎茸
のと115

総務課

新包装肉パックセンター増改装工事地鎮祭

新包装肉パックセンター増改装工事に伴い、2月29日(木)に地鎮祭が行われました。

現在の包装肉事業拠点は株式会社マルエーの受託製造、株式会社ジャコム石川、県本部直営の3つの事業機能に分かれており、別々のエリアにてそれぞれの商品製造や出荷を行っています。今回の工事により、現在の3つの事業機能を集約した県本部が運営する牛・豚・鶏包装肉の製造を受託する包装肉アウトパック施設となり、令和7年3月の完成を予定しています。

完成後は工場運営の一体化による生産性向上と製造能力の増強、衛生レベルの向上を実現し、包装肉を主体とした食肉販売事業の機能強化、維持拡大を図っていきます。

今後、県本部施設から北陸エリアの事業拠点とした事業展開を目指していくとともに、能登牛、能登豚の包装肉の取扱い拡大を図り、県内畜産農家の負担に応えるべく生産基盤の維持・拡大に寄与できるよう、鋭意取り組んでまいります。



鎌入れの儀 (西沢会長)

TAC営農推進課
JAグループ石川
営農戦略室

令和5年度 JAグループ石川 TACパワーアップ大会

2月26日(月)、石川県農業会館6階 大会議室において「JAグループ石川 TACパワーアップ大会」を開催しました。本大会は、県内における優秀TACへの表彰や先進取り組み事例の共有化などを行い、県内のTAC活動のレベルアップとスキル向上を目的に開催しております。

優秀TAC賞では、地域を代表する農業集団の実現に向けて取り組んだ上田啓太さん(JA能美)、水稻育苗ビニールハウスの有効活用・新規取り組みを実施した尾崎哲也さん(JA金沢市)、大崎園芸生産組合の産地維持・承継に向けて取り組んだ高森静香さん(JA石川かほく)が表彰されました。合わせて優秀新人TAC賞1名、レジェンドTAC賞1名、昨年の全国TACパワーアップ大会でTAC特別賞を受賞された2JA・2名とJA特別賞を受賞されたJA金沢市を特別表彰として表彰しました。

令和5年度、ファームサイド株の佐川さんとJAのTAC管理者を中心に「TAC活動改善プロジェクト」を進めてきましたが、取組を通しての成果や、若手TACへのアドバイスなどをトークセッション形式にて共有しました。

最後に西出さんより、担い手との信頼関係強化・TAC活動の実践について、大会決議をしていただきました。

農家組合員への有益な情報提供や営農指導を通じて、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」へ取り組むTAC活動を今後も強化していきます。



TAC活動改善プロジェクト取組報告
(話題提供・トークセッション)

受賞者・JA



受賞者

優秀TAC賞

上田 啓太 氏 (JA能美)
尾崎 哲也 氏 (JA金沢市)
高森 静香 氏 (JA石川かほく)

優秀新人TAC表彰

西出 圭吾 氏 (JA金沢市)

レジェンドTAC賞

中田 昌孝 氏 (JA松任)

特別表彰

JA金沢市

櫻井 和幸 氏 (JA石川かほく)
西田 誠也 氏 (JA能美)

JAホーム

新築住宅のご紹介

SNSで
情報配信中!



@ja_home_ishikawa



海を眺められ、ぬくもりのある高性能住宅

海を眺められる見晴らしの良い土地に高性能住宅が完成しました。快適な ZEH 仕様で、耐震性のあるプレウォール構法を採用し安心。2階の窓からは海の見える景色が楽しめます。随所に能登ヒバの化粧柱や県産材の杉板をみせ、木のぬくもりを感じる空間に。太陽光パネル・蓄電池を設置し補助金も活用した賢い住まいです。

— 住まいの特徴とこだわり —

- ・「高い断熱性+省エネ性」の ZEH 仕様
- ・高い耐震性のプレウォール構法
- ・海を眺められるスタディーカウンター
- ・木のぬくもりを感じられる内装
- ・太陽光パネル・蓄電池を設置した省エネ住宅

新築・リフォームのご相談はJAホームまで
(株)JA建設エナジー 住宅課 TEL 076-240-5441



Aコープ

もちつき&ふるまい鍋実施！
in Aコープとぎ店

3月9日(土)、Aコープとぎ店において被災した地域の人たちを元気づけようと、「がんばろう能登 とぎを元気に！」と題して、もちつき大会、ふるまい鍋を開催しました。

もちつき大会は株式会社六星にもご協力していただき、お客様に「よいしょ」の声を掛けながら元気よく楽しそうに餅



をついていただきました。つきあがったお餅はきな粉もちで配りました。ふるまい鍋については野菜のたっぷり入った豚汁にして、それぞれ約300名のお客様にふるまわれました。

Aコープとぎ店の新田店長は「もちつき、ふるまい鍋を通して少しでも元気な気持ちになれば」と話していました。

私のおすすめ！
エコープマーク品安心と信頼の
くらしの良品

こんにちは！ジャコム石川です。
いつもAコープや共同購入をご利用いただきありがとうございます。たくさんの「エコープマーク品」からおすすめ品をご紹介しますのでチェックしてみてくださいね。

今回は共同購入のエコープマーク品レシピにご応募いただきました**純玄米黒酢**をご紹介します。
「エコープ 純玄米黒酢」は国産有機玄米を原料に醸造、1年の長期熟成により、まろやかな酸味の旨みを感じる黒酢です。
料理はもちろん、牛乳や水で割ってお飲みいただけます。



「エコープマーク品」ってなに？

J Aグループのプライベートブランド商品です。国産農畜産物を優先的に利用し、国内製造・国内加工、環境へも配慮し、食品添加物の摂取低減を基本とした安全・安心な商品です。

私は主人と二人で、令和2年3月から純玄米黒酢の牛乳割りを毎朝の日課にして飲んでいます。
素晴らしいことに二人とも高めだった血圧が安定し健康的で元気な生活を送っております。個人差はあると思いますが皆さんにお知らせしたくて応募しました。

J A根上 女性部
松井 美鈴 様

毎朝採れたて野菜のサンドウィッチと一緒に純玄米黒酢の牛乳割りを飲んでいます。

純玄米黒酢の牛乳割り

純玄米黒酢30mlと牛乳200mlを混ぜて出来上がり。

春のひゃくまん穀おにぎり

期間限定

たけのこたくさん入ってます!

ゴロッと角切りベーコン入り!

石川県産 たけのこ 和風だし

新発売

白山麓の雪割け水を与え、時間をかけて実をたっぷり育てた柔らかく、アツい「加賀野菜」たけのこを使用。和風だしで味付けした具をご飯の中に入れていただきました。

大野たまり醤油 春キャベツ ベーコンマヨ

新発売

やわらかく甘み増した春キャベツをベーコンと一緒にマヨネーズで和え、アツセンドにブラックペッパーを入れ、ほんのりとした辛い味に仕上げられています。

能登塩まぶし 紅鮭

珠洲産の能登塩を紅鮭のほくし身に混ぜました。色鮮やかな紅鮭と旨みのある能登塩がひゃくまん穀に良く合います。

福井梅

肉厚でマイルドな酸味の福井県産梅の「紅映(べにざし)」を使用。バランスの良い定番の味です。

源助大根 たくあんマヨ

加賀野菜「源助大根」のたくあんをマヨネーズで和えました。マヨネーズの酸味とたくあんのシャキシャキ感が個性抜群。

能登牛 そぼろマヨ

能登牛をしっかりとしたそぼろに仕立て、マヨネーズと和え、意外な組み合わせがひゃくまん穀に良く合います。

金沢のお出汁 昆布

大野醤油を使用したお出汁で煮込んだ自家製昆布です。ほんのり香るだしがやさしい味付けになっています。

能登豚 生姜焼き

「能登豚」を使用した自家製生姜焼きをおにぎりに包み込みました。ほのかな生姜の味が食欲をそそります。

大野たまり醤油 和風 ツナ・マヨ

大豆のうまみ成分が多く、トロリとした濃厚感のある大野たまり醤油をツナマヨに混ぜ、和風ツナ・マヨに仕上げました。マヨネーズ感たっぷりでおいしいUP!

能登塩まぶし 焼たらこ

定番の焼たらこに珠洲産の能登塩を混ぜました。一番塩の上質な塩が焼たらこを引き立てます。

「つくる」と「たべる」のあいだに。

株式会社 米心石川

〒920-0383 金沢市松島1丁目1番地 Tel.076-240-5788 米心石川 検索

ひゃくまん穀

米新品種「ひゃくまん穀」普及推進委員会

100komejishikawa ひゃくまん穀 検索

いしかわスタイル

ISHIKAWA STYLE

いしかわスタイルとは?

2023年4月より正式にオープンした、株式会社米心石川が運営する地域情報サイトです。「知らないままではもったいない」をテーマに、県内の「イベント・キャンペーン・新店・新商品・暮らし」という5つのジャンルで最新情報を日々掲載しています。新しいお店や商品探し、お得なキャンペーン、週末に家族で楽しめるイベント探しに困っていませんか? そんな方にピッタリのサイトです。

石川県の最新情報を募集中!

- 無料 イベント・キャンペーン・新店・新商品情報を完全無料で掲載可能!
- 簡単 掲載依頼はとっても簡単! 早ければ5分で掲載依頼完了!
- 早い 掲載依頼から掲載完了までの期間は3営業日以内!

「つくる」と「たべる」のあいだに。

株式会社 米心石川 が運営する地域情報サイト

石川県の

イベント キャンペーン 新店

新商品 くらし

「知らないままではもったいない情報を日々更新中!」

サービス開始から8ヶ月で
利用者数累計30万人!

PICK UP 掲載件数 1,000件突破!

- イベント 石川、金沢の気になる週末イベント9選
- キャンペーン ロロプレゼントキャンペーン開催中!
- 新店 カフェ〇〇〇オープン!
- 新商品 △△屋×××新発売!
- くらし 読者が選ぶおススメのお土産5選

---詳細はWebサイトでチェック!--

いしかわスタイル

https://ishikawa-style.com/

イベント・キャンペーン・新店・新商品情報
掲載依頼はこちらから▶

▼SNS公式アカウントをフォローして、最新情報をチェック!

Instagram X (Twitter)

私たち全農グループは、**生産者と消費者を安心して結ぶ懸け橋**になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

発行所/全国農業協同組合連合会 石川県本部
管理部 開発広報課

〒920-0383 金沢市古府1丁目220番地
TEL (076) 240-5371 FAX (076) 240-5319
http://www.is.zennoh.or.jp